正太寺通信

第４号

主張

「いつかは喫茶コーナー」

副住職の正哲です。いまお檀家さん宅を「おとき」に伺うのに忙しい日々を送っています。お檀家さんにしてみれば一度きりのお経ですが、私からすれば同じお経を繰り返し読み続けるのがおときです。ひたすら読み続ける中での楽しみは、お茶をいただきながらの世間話の時間。私どもの都合でお茶をいただかないこともあるのですが、本当はお経よりもお話に時間を割きたいと思っているぐらいです。

入出・太田地区のお檀家さんは年に二度、鷲津・新所原地区は年に一度、市外となると法事がなければこちらから伺うことが無いお宅も多いです。おときのお経を読みに伺って、ついでにいろんなお話をするというのは、大変貴重な時間なのです。ご供養のお経も大切ですが、その意義を知っていただくことも大切ですし、またお話をしながらお寺のことを知っていただくのも、お檀家さん一人一人のことを知ることも、大切です。お経を読んでハイさよならでは、お経の功徳も減ってしまうように感じてしまいます。

ですからついつい長話になってしまうこともしばしば。忙しい合間を縫ってお迎えいただいている皆さんには大変申し訳ありません。

しかしそうして直接お話をすることはやはり得がたい機会です。なるべく増やしていきたいと、考えています。おときの時期だけでは限界がありますから、お寺へお参りに寄っていただいたときにいろいろとお話が出来ればとてもよろしいかと思います。そこで今回のお題である、喫茶コーナーの構想が出てくるのです。

自身の忙しさもあって今すぐにというわけにはいきませんが、お寺の一角に、本堂の中が良いでしょうか、ちょっとした喫茶コーナーを設けて、寺務室で仕事をしていればどなたかがお参りに来たのは分かりますから、呼び止めてお茶を一服していただいて、その間に少し世間話でもさせていただけたらと、考えています。老後の楽しみではありません、近い将来の構想です。

喫茶コーナーというと大げさですが、机があればあとはポットと急須と湯飲みがあれば十分でしょう。幸い本堂の西にも東にも池があります。そこを眺めながら一服するのは、悪くないと思いますが、いかがですか？

以前のお寺は子どもたちの遊び場でした。自然と人が集まる場でした。それが今は、寂しい限りです。お寺は私ども和尚の物ではありません。お檀家さんと、仏教を信仰する人々のための物です。喫茶コーナーへのご意見と共に、お寺を有効に活用するアイデアを、是非お寄せください。

お葬式って？　帰依三宝　連載④

剃髪（ていはつ）し、懺悔（さんげ）し、灌頂水（かんちょうすい）を頂いた後に臨むのが、帰依三宝（きえさんぼう）の儀式です。帰依とは信仰生活の拠り所とすること、三宝とは仏・法・僧という仏教における三つの宝のことです。仏とは仏様のこと。仏様はこの上なき尊いものです。法とはおしえのこと。おしえは煩悩を離れた徳です。僧とは僧侶のこと、すなわち、修行の仲間のことです。助け合い、励まし合って修行を続けていく仲間です。これら三つの大切な宝を、信仰生活の拠り所といたしますと、声に出してお誓いするのです。

もちろん故人には声が出せませんから、代わりにお役僧様方が、ご導師様に従って帰依三宝のお誓いを述べられます。

「南無帰依仏（なむきえぶつ）　南無帰依法（なむきえほう）
南無帰依僧（なむきえそう）
帰依仏無上尊（きえぶつむじょうそん）
帰依法離塵尊（きえほうりじんそん）
帰依僧和合尊（きえそうわごうそん）
帰依仏竟（きえぶっきょう）　帰依法竟（きえほうきょう）
帰依僧竟（きえそうきょう）」

三宝に帰依することによって、葬儀という授戒の儀式の目的である、戒律を授かる準備が出来ました。次回は、いよいよクライマックスです。

初詣は正太寺へ！

正月三が日は毎朝6時より皆さんと共に朝のお勤めをいたします。短い時間ですし、甘酒の振る舞いもございます。何よりお勤めの後に眺める日の出は、例えようのない美しさです。少し寒いですが、ストーブで精一杯暖めてお待ちしております。ぜひ来年の初詣は、正太寺へお越しください。

発行人　曹洞宗宇津山正太寺
住職　穴水春男
編集人　副住職　穴水正哲
静岡県湖西市入出八〇〇番地
電話〇五三―五七八―〇〇四九
http://www.shotaiji.or.jp/
info@shotaiji.or.jp